滋賀県立大学陶器浩一研究室＋たけともミライ

活動概要資料

活動内容

私たちは「ものづくり　まちづくり　未来づくり」をテーマに、人に寄り添い、地域に寄り添う、活動を行っている。

建築を学ぶ学生たちが、地域の資源である竹を用いて場の再生を行い、そこを拠点にした地域の方々との活動により地域の子供たちと共に学び、共に成長し、それが地域の未来づくりになることを目的としている。

活動の拠点は、東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市と大学に近い滋賀県菩提寺の 2 カ所である。被災地での地域の拠点づくり、放置竹林の再生と、場所も目的も異なるが、学生たちが入り込み汗を流して場を作ることにより、それが“プラス”の場となり、その拠りどころを通じて学生たちが地域の方々と共に活動することが地域コミュニティの維持と環境保全につながっている事が特徴である。具体的な活動を以下に示す。

・気仙沼での活動

震災ひと月後に被災地を訪れたとき、「自分たちのことよりも子どもたち孫たちに胸を張れる地元を作らないといけない。ただ、集まって話す場所もない」という言葉に胸を打たれ、“私たちに何ができるか？”と悩みながら、力を合わせて地域の竹を用いて自力で会所を建設したことから始まった。なぜ竹を使ったのか？　それは竹しかなかったからであった。資材も資金もない中、地域に生育する竹を用いて、素人の学生たちが手づくりで作れる建築を考えた。お金にも単位にもならないけれど多くの学生が集まってくれ、困難を乗り越えて竹の会所を築いてくれた。打算や思惑ではなく、純粋に“地域のために何ができるか”という想いを持った彼らだからこそ、成し遂げることが出来たのだと思う。

「ひとりひとりは小さな力でも、みんなの力を合わせれば大きな力になる」その思いを実感した学生たちが“たけとも”という会を立ち上げてくれ、以来、現在まで 8 年間に亘り、延べ 159 人（3036 人・日）の学生たちがここに集まり、会所を護り、地域の子供たちと触れ合ってきた。学生も入れ替わり今は当初を知る学生はいない、たけともの理念を受け継ぎ、次に伝えて行ってくれている。自然材料であるが故に建物の補修は頻繁に行う必要があるが、それが技術の伝承と地域の竹林整備にもつながっている。訪れるたびに地域の子供たちとの”おまつり”を行い、心の交流を行っている。そして、私たちが地域の中で生活するにあたり多くの地域の方々に支えられ育てられ、学生たちは「生きる」ということの意味をこの地域から学ばせていただいている。

“竹の会所”は特例として合計 7 年半の仮設建築許可を得ていたが 2019 年 3 月に満了を迎え、学生たちの手で丁寧に解体された。解体した竹材はチップにして敷地に敷き均し、土に戻り環境の一部となった。建物は無くなったが、「建物の終わりが地域の未来のはじまり」との想いで、活動は次のステップに進んでいる。また、ここで起こった出来事は皆の心の中に生き続けてくれる、時間と空間を超えて、小さな絆はいつまでもつながりつづけるだろうと思う。

・菩提寺での活動

住宅地に近接した放置竹林の整備を行っていた地域協議会から、公園のような場所にできればと相談を受けたことがきっかけである。人工的な公園とするよりも、“自然の生態を理解しつつ人と自然との関係を考えるような”場になればと、出来るだけ自然を残しながら、毎年伐採した竹で建築や遊歩道を整備することを計画した。また、場が明るくなれば子供たちも愛着が沸き、みんなで環境整備することで地域コミュニティが活性化する、事を目的とし、「生きる自然は地域を育む」というテーマで活動している。

場所は「たけの庭」と名付け、生えた竹を支えにして遊具や構築物をつくり、竹チップで遊歩道を整備するなど、学生と地域の方とで協力しながら計画を進め、実行してきた。地域の子どもたちに竹林を遊び場として開いていき、加えて、近隣の中学校とも協力して、毎年中学生と一緒に竹林整備をする機会を設けている。これにより、地元の子供たちに竹林整備を続けてく大変

さと大切さ、そして自分たちできれいにした竹林で遊ぶ楽しさを体感してもらうことで、竹林という自然環境に対してどう接していくべきなのかを考えてもらっている。また、この活動を続けていく中で、地元の区からも活動が認められ、別の放置竹林にも力を貸してほしいという依頼があり、更により広くの放置竹林を環境改善と地域コミュニティづくりの活動を続けていく計画である。

設立目的

私たちは「ものづくり　まちづくり　未来づくり」をテーマに、ものづくりを通じて人と地域の未来を考える活動を行っている。活動の拠点は、東日本大震災の被災地である宮城県気仙沼市と大学に近い滋賀県菩提寺の 2 カ所である。気仙沼では、地域のお役に立ちたいという想いで地域の竹を用いて会所を建設することから始まった。以降、そこを拠点に学生と地域の子供との交流へと発展している。また、菩提寺では住宅地に隣接した放置竹林の再生に地域の方々と取り組み、人々が訪れるようになった「たけの庭」を共に維持保全することが地域の活性化につながっている。被災地での地域の拠点づくり、放置竹林の再生と、場所も敷地も異なるが、学生たちが地域の方々や子供たちと共に活動することにより“共に学び、共に成長し”、それが地域コミュニティの維持と環境保全につながっている事が特徴である。

滋賀県立大学　陶器浩一研究室　連絡先：toki.lab.bamboo@gmail.com

たけともミライ　Facebook：https://m.facebook.com/Taketomo.takenokaisyo/?locale2=ja_JP

BAMBOO HOUSE PROJECT Instagram：https://www.instagram.com/bhp_gram/